

T&D Jリートファンド 限定追加型1402

第4期運用報告書（全体版） （決算日 2017年12月20日）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／不動産投信	
信託期間	2014年2月28日から2021年6月18日まで	
運用方針	安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。	
主要運用対象	T&D Jリート ファンド 限定追加型1402	外国投資信託であるクレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-J-REIT Fund（適格機関投資家限定）および国内の証券投資信託であるマネーアカウントマザーファンドを主要投資対象とします。
	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-J-REIT Fund（適格機関投資家限定）	東証REIT指数に採用されている（または採用予定の）不動産投資信託（以下、「Jリート」といいます。）を主要投資対象とします。運用は、副投資顧問会社であるT&Dアセットマネジメント株式会社が行います。副投資顧問会社は、個別銘柄調査に基づくボトム・アップ・アプローチにより投資判断を行い、各銘柄に対する投資比率を適宜調整します。
	マネーアカウントマザーファンド	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への直接投資は行いません。	
分配方針	分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。
さて、「T&D Jリートファンド限定追加型1402」は、2017年12月20日に第4期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先
投信営業部 03-6722-4810
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)
<http://www.tdasset.co.jp/>

設定以来の運用実績、基準価額の推移等

設定以来の運用実績

決算期	基準価額		東証REIT指数 (配当込み)		債券 組入比率	債券 先物比率	クレディ・スイス・ ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-J-REIT Fund (適格機関投資家限定) 組入比率	純資産 総額	
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)					期中 騰落率
設定日 2014年2月28日	円 10,000	円 —	% —	2,512.00	% —	% —	% —	百万円 319	
1期(2014年12月22日)	12,559	0	25.6	3,208.05	27.7	0.0	—	98.0	1,786
2期(2015年12月21日)	12,058	0	△ 4.0	3,097.38	△ 3.4	0.1	—	97.8	478
3期(2016年12月20日)	12,044	0	△ 0.1	3,292.14	6.3	—	—	98.1	288
4期(2017年12月20日)	10,836	0	△10.0	3,185.48	△ 3.2	—	—	97.4	137

(注) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。参考指数である東証REIT指数(配当込み)【出所:東京証券取引所】は、基準価額への反映を考慮して前営業日の指数を採用しております。なお、設定日には当ファンドが外国投資信託を組入れた日の前営業日の指数を表示しております。

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		東証REIT指数 (配当込み)		債券 組入比率	債券 先物比率	クレディ・スイス・ ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-J-REIT Fund (適格機関投資家限定) 組入比率
	騰落率	(参考指数)	騰落率				
期首(前期末) 2016年12月20日	円 12,044	% —	3,292.14	% —	% —	% —	% 98.1
12月末	12,377	2.8	3,389.29	3.0	—	—	98.3
2017年1月末	12,405	3.0	3,419.71	3.9	—	—	98.2
2月末	12,286	2.0	3,391.45	3.0	—	—	98.5
3月末	11,949	△ 0.8	3,312.65	0.6	—	—	98.5
4月末	11,692	△ 2.9	3,256.15	△ 1.1	—	—	96.9
5月末	11,588	△ 3.8	3,260.95	△ 0.9	—	—	97.8
6月末	11,333	△ 5.9	3,218.03	△ 2.3	—	—	98.0
7月末	11,209	△ 6.9	3,205.54	△ 2.6	—	—	96.7
8月末	11,097	△ 7.9	3,187.64	△ 3.2	—	—	97.1
9月末	10,864	△ 9.8	3,130.77	△ 4.9	—	—	97.5
10月末	10,645	△ 11.6	3,100.21	△ 5.8	—	—	98.4
11月末	10,860	△ 9.8	3,187.90	△ 3.2	—	—	97.0
期 末 2017年12月20日	10,836	△ 10.0	3,185.48	△ 3.2	—	—	97.4

(注) 基準価額は1万円当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は期首比。

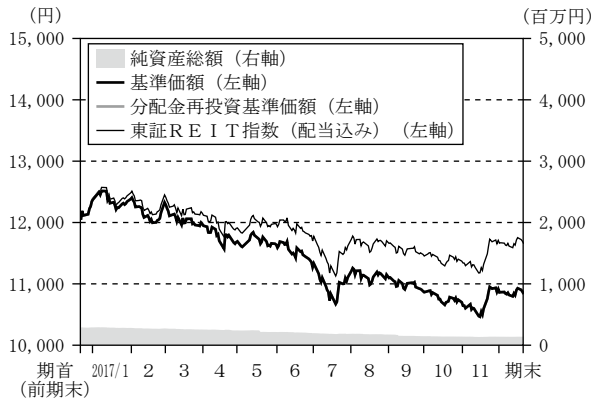
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。参考指数である東証REIT指数(配当込み)【出所:東京証券取引所】は、基準価額への反映を考慮して前営業日の指数を採用しております。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



第4期首：12,044円

第4期末：10,836円（既払分配金0円）

騰落率：△10.0%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額および参考指数は、期首（2016年12月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

（注）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額の主な変動要因

実質的に投資しているJリークの価格が、長期金利上昇懸念や投資信託の換金売りなどを背景としたJリート市場の下落の影響を受けて下落したため、期中の基準価額（分配金再投資ベース）は下落しました。

■ 組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-J-REIT Fund (適格機関投資家限定)	△9.5%
マネーアカウントマザーファンド	△0.1

■ 投資環境

【Jリート市況】

Jリート市場は、長期金利の上昇懸念や投資信託からの資金流出などを受けて、期を通じて下落しました。

期初は、日銀が国債購入額を増額することで長期金利の上昇を抑える姿勢を示したことから上昇して始まりました。しかし、2017年に入ると、米国の政策懸念による円高進行や米国の利上げ観測による長期金利の上昇圧力、米国によるシリア攻撃や北朝鮮情勢の緊迫化など地政学リスクに伴うリスク回避姿勢の強まりなどを受けて、4月まで下落基調が続きました。6月から7月半ばにかけては、長期金利の上昇や4月以降続く毎月分配型投資信託の換金売りに押されて一段と下落しました。その後は長期金利が下落したことにより上昇に転じる局面もありましたが、投資信託からの資金流出が止まらず、11月半ばには年初来の安値を付けました。その後はJリート市場の割安感を意識した外国人投資家の買いにより市場は急反発しました。

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは上昇しました。日銀による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」などの短期金利を低位に抑える金融政策が継続しましたが、日銀の国庫短期証券買入オペ動向に対する不透明感の高まりなどから利回りは上昇し、期初の△0.40%から期末は△0.18%となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

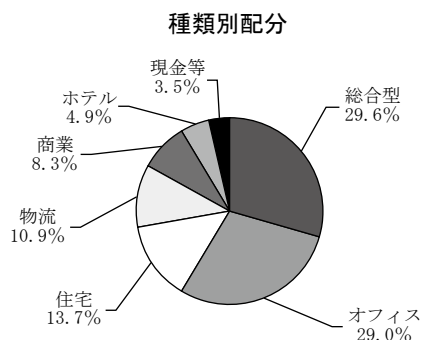
主たる投資対象である「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ-J-REIT Fund（適格機関投資家限定）」について、期を通じて概ね高位に組入れ、「マネーアカウントマザーファンド」にも投資を行いました。

【クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ-J-REIT Fund（適格機関投資家限定）】

期初から2017年6月半ばまでは、円高修正が進むとともに国内景気にも底入れ感が出てきたことから、企業業績は回復に向かうと考えられたものの、米国新政権の政策運営や地政学リスクなどへの懸念が高まったことから、日本企業の収益環境や世界経済の動向に対する不透明感が高いと判断し、各セクターへの配分は概ね市場平均並みを維持しました。6月半ばから期末までは、東京都心のオフィス市場中心に国内不動産市況は回復基調が続いていたものの、国内長期金利の上昇や投資信託からの資金流出などの需給悪化を受けてJリート市場は軟調な展開が続いたことから、リスクはある程度分散させることが妥当と判断し、この期間についても各セクターへの配分は概ね市場平均並みを維持しました。

個別銘柄では、野村不動産マスターファンド投資法人、プレミア投資法人等の価格下落が基準価額の下落要因となりました。

<クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ-J-REIT Fund（適格機関投資家限定）の組入状況> 2017年11月末現在



組入上位10銘柄

	銘柄名	種類	比率
1	ジャパンリアルエステイト投資法人	オフィス	6.5%
2	野村不動産マスターファンド投資法人	総合型	6.3
3	日本ビルファンド投資法人	オフィス	5.9
4	大和ハウスリート投資法人	総合型	5.9
5	日本プロロジスリート投資法人	物流	5.5
6	ケネディクス・オフィス投資法人	オフィス	5.1
7	ユナイテッド・アーバン投資法人	総合型	5.1
8	ジャパン・ホテル・リート投資法人	ホテル	4.9
9	オリックス不動産投資法人	オフィス	4.7
10	アクティビア・プロパティーズ投資法人	総合型	4.5

(注) ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン（シンガポール支店）より入手した情報をもとに作成しております。なお、T&D Jリートファンド限定追加型1402の基準価額への反映を考慮して1営業日前の数値を使用しております。

(注) 各項目の比率は純資産総額に対する比率です。

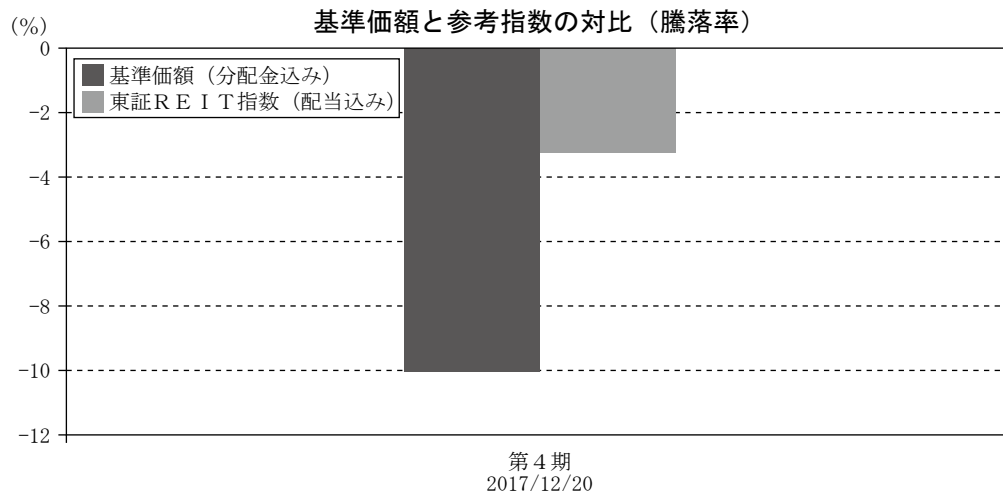
(注) 種類は当社独自の分類です。

【マネーアカウントマザーファンド】

短期国債の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



当期、基準価額（分配金込み）は10.0%下落したのに対し、参考指数である東証REIT指数（配当込み）は3.2%下落しました。その結果、当ファンドは参考指数を6.8%下回りました。

その主な要因は、当ファンドの主要な投資対象である「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-J-REIT Fund（適格機関投資家限定）」の基準価額の騰落率が、参考指数を下回ったことにあります。その背景として、同外国投資信託において参考指数に対し組入比率を高位としていたオリックス不動産投資法人、産業ファンド投資法人、アクティビア・プロパティーズ投資法人等の銘柄が、投資信託からの資金流出に伴う換金売りに押されて下落したことなどにより

■ 分配金

1万口当たりの分配金（税込み）は、市況動向等を勘案し、見送らせていただきました。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

主要な投資対象である「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ-J-REIT Fund（適格機関投資家限定）」への投資比率を高位に保つ方針です。また、もう一方の投資対象である「マネーアカウントマザーファンド」への投資も継続致します。

【クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ-J-REIT Fund（適格機関投資家限定）】

国内不動産市況は回復基調が継続しており、Jリート市場の割安感が高まっています。しかしながら、Jリート市場は2017年11月末に短期間で急反発したことに加え、引続き需給面では弱含みでの推移が予想されること等から、当面は現行水準でもみ合う展開が想定されます。このため当ファンドのセクター配分は当面基本的に市場平均並みとする方針です。

個別銘柄に関しては、セクター内で相対的に物件取得による資産成長の可能性の高い銘柄や既存の保有物件において賃料上昇余地の高い銘柄への配分を高め、相対的に投資口価格が上昇しバリュエーション面での魅力が薄れた銘柄と入替えを図っていく方針です。

【マネーアカウントマザーファンド】

足許における比較的堅調な国内外の景気動向などを背景に、日本のインフレ率は上向いていくと予想しますが、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうした中、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1 万口当たりの費用明細 (2016年12月21日から2017年12月20日まで)

費用の明細

項目	当期		項目の概要
	2016/12/21~2017/12/20 金額	比率	
平均基準価額	11,525円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	97円 (44) (50) (4)	0.842% (0.378) (0.432) (0.032)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内での ファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料 (投資信託証券)	161 (161)	1.400 (1.400)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う 手数料
(c) その他費用 (監査費用)	1 (1)	0.005 (0.005)	(c) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	259	2.247	

- (注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く。)が支払った費用を含みません。
(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

売買および取引の状況 (2016年12月21日から2017年12月20日まで)

(1) 投資信託証券

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外 国 (邦貨建)	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-J-REIT Fund (適格機関投資家限定)	口	千円	口	千円
		—	—	10,961	126,574

(注) 金額は受渡代金。単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
マネーアカウントマザーファンド	千口	千円	千口	千円
	—	—	707	710

(注) 単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2016年12月21日から2017年12月20日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2017年12月20日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	期首 (前期末)	当 期		末
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-J-REIT Fund (適格機関投資家限定)	口 22,956	口 11,994	千円 133,923	% 97.4

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期首 (前期末)	当 期		末
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
マネーアカウントマザーファンド	千口 1,196	千口 488	千円 489	千円 489

(注) マネーアカウントマザーファンド全体の受益権口数は529,534千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2017年12月20日現在)

項 目	当 期		末
	評 価 額	比 率	比 率
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-J-REIT Fund (適格機関投資家限定)	千円 133,923	96.9	%
マネーアカウントマザーファンド	489	0.4	
コール・ローン等、その他	3,733	2.7	
投資信託財産総額	138,145	100.0	

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年12月20日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	138,145,733円
コール・ローン等	3,732,295
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-J-REIT Fund(適格機関投資家限定) (評 価 額)	133,923,694
マネーアカウントマザーファンド(評価額)	489,744
(B) 負 債	684,287
未 払 信 託 報 酬	679,988
未 払 利 息	6
そ の 他 未 払 費 用	4,293
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	137,461,446
元 本	126,859,301
次 期 繰 越 損 益 金	10,602,145
(D) 受 益 権 総 口 数	126,859,301口
1 万 口 当 ち 基 準 価 額 (C/D)	10,836円

- (注) 期首元本額 239,696,125円
 期中追加設定元本額 0円
 期中一部解約元本額 112,836,824円
 (注) 1口当たり純資産額は1.0836円です。

損益の状況

当期 自2016年12月21日 至2017年12月20日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 2,460円
支 払 利 息	△ 2,460
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△15,573,123
売 買 益	5,199,863
売 買 損	△20,772,986
(C) 信 託 報 酬 等	△ 1,768,618
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△17,344,201
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	27,953,544
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 7,198
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 7,198)
(G) 合 計 (D+E+F)	10,602,145
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	10,602,145
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 7,198
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 7,198)
分 配 準 備 積 立 金	41,979,459
繰 越 損 益 金	△31,370,116

- (注) 損益の状況の中で
 (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
 (C)信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益 (0円)、費用控除後の有価証券売買等損益 (0円) および分配準備積立金 (41,979,459円) より、分配対象収益は41,979,459円 (1万口当たり3,309円) となりましたが、当期の分配は見送らせていただきました。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳 (単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	当期
	2016年12月21日 ～2017年12月20日
当期分配金	0
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,309

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

補足情報

マネーアカウントマザーファンドの主要な売買銘柄

当期における売買はありません。

マネーアカウントマザーファンドの組入資産の明細

当期末における組入れはありません。

組入投資信託証券の内容

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ-J-REIT Fund（適格機関投資家限定）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分 類	ケイマン籍／外国投資信託／円建
運 用 方 針	安定的に中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。
主 要 運 用 対 象	東証REIT指数に採用されている（または採用予定の）Jリートを主要投資対象とします。 運用は、副投資顧問会社であるT&Dアセットマネジメント株式会社が行います。副投資顧問会社は、個別銘柄調査に基づくボトム・アップ・アプローチにより投資判断を行い、各銘柄に対する投資比率を適宜調整します。
主 な 組 入 制 限	同一のJリートへの実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%を超えないこととします。 外貨建資産への直接投資は行いません。 流動性の乏しい資産には純資産総額の15%を超えて投資しません。 運用会社は、自己又は投資信託受益証券以外の第三者の利益を図る目的で行う取引等、受益者の保護に欠け、若しくは信託財産の適正を害する取引は行いません。 発行済株式数の50%を超えて、株式の買入れは行いません。 純資産総額の10%を超えた借入れは行いません。
投 資 顧 問 会 社	クレディ・スイス・マネジメント（ケイマン）リミテッド
副 投 資 顧 問 会 社	T&Dアセットマネジメント株式会社

※次ページ以降の記載は、組入投資信託証券の関係会社より入手した情報をもとに作成しております。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。

- (1) バンクオブニューヨークメロン証券株式会社より入手した監査済報告書を、当社が一部和訳したものです。
- (2) ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン（シンガポール支店）より入手したデータをもとに作成したものです。

(1) 損益計算書

計算期間：2016年7月1日～2017年6月30日

単位：円

収益

投資に係る純利益 (21,437,668)

受取配当金（源泉税1,406,913円控除後） 7,897,034

投資純損益 (13,540,634)

費用

管理・保管費用 3,854,930

その他費用 5,758,188

事務代行手数料 2,246,361

取引手数料 158,118

投資顧問料 112,361

運用費用合計 12,129,958

期中の純資産変動 (25,670,592)

(注) 日付は現地基準です。

(注) () 書きは負数です。

(2) 組入資産の明細

作成基準日：2017年6月30日

国内投資信託証券

銘柄名	口数	評価額
		円
ジャパンリアルエステイト投資法人	24	13,416,000
野村不動産マスターファンド投資法人	85	13,064,500
日本ビルファンド投資法人	21	12,054,000
オリックス不動産投資法人	66	10,949,400
大和ハウスリート投資法人	39	10,409,100
ユナイテッド・アーバン投資法人	57	9,148,500
日本プロロジスリート投資法人	38	9,097,200
ジャパン・ホテル・リート投資法人	109	8,665,500
アドバンス・レジデンス投資法人	30	8,385,000
アクティビア・プロパティーズ投資法人	16	7,688,000
日本アコモデーションファンド投資法人	16	7,520,000
ケネディクス・オフィス投資法人	12	7,200,000
GLP投資法人	55	6,660,500
フロンティア不動産投資法人	14	6,489,000
日本リテールファンド投資法人	30	6,225,000
ケネディクス・レジデンシャル投資法人	19	5,321,900
産業ファンド投資法人	10	5,100,000
平和不動産リート投資法人	58	5,069,200
森ヒルズリート投資法人	36	4,975,200
インベスコ オフィス ジェイリート投資法人	40	4,200,000
コンフォリア・レジデンシャル投資法人	17	4,120,800
ヒューリックリート投資法人	22	3,861,000
日本ロジスティクスファンド投資法人	16	3,736,000
ジャパンエクセレント投資法人	29	3,627,900
大和証券オフィス投資法人	6	3,402,000
ケネディクス商業リート投資法人	12	2,848,800
合計		183,234,500

(注) 日付は現地基準です。

マネーアカウントマザーファンド

運用報告書（全体版） 第16期（決算日 2017年12月11日）
（計算期間 2017年6月13日から2017年12月11日まで）

「マネーアカウントマザーファンド」は、2017年12月11日に第16期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債組入比率	債先物比率	純資産総額
	円	騰落率			
12期（2015年12月10日）	10,038	0.0	54.5	—	百万円 1,055
13期（2016年6月10日）	10,037	△0.0	—	—	1,019
14期（2016年12月12日）	10,033	△0.0	—	—	1,383
15期（2017年6月12日）	10,029	△0.0	—	—	922
16期（2017年12月11日）	10,026	△0.0	—	—	601

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	債券組入比率	債券先物比率
期首 (前期末) 2017年 6 月 12 日	円 — %	%	%
6 月 末	10,029 0.0	—	—
7 月 末	10,028 △0.0	—	—
8 月 末	10,028 △0.0	—	—
9 月 末	10,027 △0.0	—	—
10 月 末	10,027 △0.0	—	—
11 月 末	10,026 △0.0	—	—
期 末 2017年 12 月 11 日	10,026 △0.0	—	—

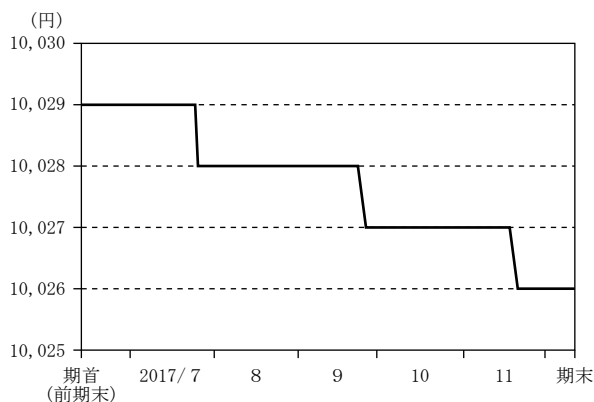
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の10,029円からスタートし、期末は10,026円となりました。運用対象であるコールローン等の利回りがマイナスで推移したことから、下落となりました。

■ 投資環境

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期初の△0.11%から期末は△0.17%となりました。日銀の国庫短期証券買入オペ動向の不透明感などから利回りが上昇する局面もありましたが、海外勢による需要の高まりなどを背景に金利は低下しました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

短期国債の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 今後の運用方針

足許における比較的堅調な国内外の景気動向などを背景に、日本のインフレ率は上向いていくと予想しますが、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2017年6月13日から2017年12月11日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2017年6月13日から2017年12月11日まで)

当期における売買はありません。

利害関係人との取引状況等 (2017年6月13日から2017年12月11日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2017年12月11日現在)

当期末における組入れはありません。

投資信託財産の構成 (2017年12月11日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 661,045	% 100.0
投資信託財産総額	661,045	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年12月11日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	661,045,836円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	661,045,836
(B) 負 債	60,001,184
未 払 解 約 金	60,000,000
未 払 利 息	1,184
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	601,044,652
元 本	599,480,283
次 期 繰 越 損 益 金	1,564,369
(D) 受 益 権 総 口 数	599,480,283口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	10,026円

(注) 期首元本額 920,103,268円
 期中追加設定元本額 1,995,071,770円
 期中一部解約元本額 2,315,694,755円

(注) 1口当たり純資産額は1.0026円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳

T&D通貨トレード新興国社債ファンド (毎月分配型) 円ヘッジ・コース	66,127,026円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド (毎月分配型) 米ドルプル・コース	12,370,307円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド (毎月分配型) 米ドルベア・コース	810,623円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド (毎月分配型) ユーロプル・コース	154,330円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド (毎月分配型) ユーロベア・コース	1,712,731円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド (毎月分配型) 豪ドルプル・コース	52,355,949円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド (毎月分配型) 豪ドルベア・コース	430,154円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド (毎月分配型) レアルプル・コース	21,729,762円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド (毎月分配型) インドネシアレアル・コース	636,065円
T & D J リートファンド限定追加型1402	488,474円
T&Dブル・ベア・ファンド (南アランド・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (南アランド・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (ブラジルレアル・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (ブラジルレアル・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (インド株・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (インド株・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (中国株・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (中国株・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (原油指数・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (原油指数・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (米国リート・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (米国リート・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド (マネーボール・コース)	1,694,200円
リビング・アース戦略ファンド (年2回決算コース)	99,632円
リビング・アース戦略ファンド (年4回決算コース)	99,632円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5 (インド・ダブルプル5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5 (インド・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5 (中国・ダブルプル5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5 (中国・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5 (レアル・ダブルプル5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5 (レアル・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5 (金・ダブルプル5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5 (金・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5 (マネーボール5)	440,014,218円

損益の状況

当期 自2017年6月13日 至2017年12月11日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 312,866円
支 払 利 息	△ 312,866
(B) 当 期 損 益 金 (A)	△ 312,866
(C) 前 期 繰 越 損 益 金	2,684,250
(D) 追 加 信 託 差 損 益 金	5,558,230
(E) 解 約 差 損 益 金	△ 6,365,245
(F) 合 計 (B + C + D + E)	1,564,369
次 期 繰 越 損 益 金 (F)	1,564,369

(注) 損益の状況の中で

(D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。
 (E)解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。